



# 成隣だより

平成29年4月28日  
第2号  
昭島市立成隣小学校  
校長 加賀田 真理



## 「わかりあう」ための「かかわり」

校長 加賀田 真理

軒下にツバメの姿が見られ、若葉の緑が美しい季節となりました。

先日は、年度当初の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。一部ですが、ご紹介をさせていただきます。

- 読み聞かせは3年生までとお聞きしておりますが、6年生まで続けてはどうかと思います。
- 子供たちにのびのびと運動会をさせてあげたい。大神グラウンドでの実施はできないでしょうか。
- （道徳の授業の重視は）人に対する思いやり、目標に向かって自分をコントロールする力、コミュニケーションの力など、生きていく上で、人との関わりや自分を律する力は本当に大切なことで、子供が小さいうちからこういうものに触れるよい機会だと思っております。
- 学校任せにせず、自主的に学習する心を育てたり、「元気アップカード」をもとに健康的な生活習慣作りに励んだり、もっと子供のことに向き合っていこうという気持ちにさせていただきました。
- 成隣友の会、すごく良い仕組みだと思ってます。楽しみです。

保護者や地域の方々との共通理解のもとに教育活動をすすめることが有効であり、とても大切だと考えています。これからも、アンケート等へのご協力、よろしくお願いいたします。

人と人が「わかりあう」ためには、「かかわる」ことが必要です。

「星の王子さま」のお話の中で、キツネが王子さまに、十萬ものキツネの中から、たった一匹のキツネと仲良くなるためのかかわりの大切さを教えますが、わかりあうためには、かかわるプロセスやかかわる時間が必要となるのでしょう。

ただ、考えも立場も異なる相手と接触するという事は、必ずしも意見が一致するとは限りません。時には、上手な距離感が必要となる場合もあることでしょう。車の運転で事故を起こさないためには適切な車間距離が必要なように、人間関係でも、言葉を使ってくっついたり、離れたり、上手に人間関係の距離感を調節する必要があります。言葉で距離感を調整できる力を身に付けることが大切です。

外国籍のお子さんに日本語を教えている日本語教室のある先生が、通っているお子さんに日本に来て戸惑いを感じたことを尋ねたら、「日本人からは、相手に対するリスペクト(respect 敬意)が感じられない。」と答えたそうです。礼儀正しく、親切で優しいとも言われる日本人ですが、異文化や異なる考え方に対しては、知らず知らずのうちに、相手を理解しようとする前に、自分の立場や考えを押しつけていることがあるのかもしれません。ケンカにならないよう上手に利害を調整し、どちらにとっても有益となる関係づくりができる「言葉の力」を子供たちに育てていきたいと考えています。

子供たちも、この3週間様々な活動を通して、新しい友達や先生とかかわりを深めてきている様子が伺えます。様々な人とかかわる勇気を、ご家庭でも励ましてあげてください。